

オタク書誌 (抄)

佐々木 隆

※「付録 (理解の深まるオタク文化・オタク研究の参考資料一覧)」(『ことばとオタク文化』武蔵野学院大学佐々木隆研究室、2021年1月)をもとに、増補したものである。

- 001 中森明夫『『おたく』の研究(1) 街には『おたく』がいっぱい』
(6月号)、『『おたく』の研究(2) 『おたく』も人並みに恋をする?』(7月号)、『『おたく』の研究 おたく地帯に迷い込んだで』(8月号)、『漫画ブリッコ』、6月～8月号、セルフ出版/発売:日正堂、1983年6月～8月
→ 『おたくの本』、別冊宝島104号、JICC出版局、1989年12月
→ <https://www.burikko.net/people/otaku01.html>
<https://www.burikko.net/people/otaku02.html>
<https://www.burikko.net/people/otaku03.html>
- 002 大塚英志『物語消費論—「ビックリマン」の神話学』、新曜社、1989年5月
- 003 『おたくの本』、別冊宝島104号、宝島社、JICC出版局、1989年12月
→ 別冊宝島編集部編『「おたく」の誕生!!』、宝島社、2000年3月
- 004 太田出版編集部編『Mの世代—ぼくらとミヤザキ君』、太田出版、1989年12月
- 005 中島梓『コミュニケーション不全症候群』、筑摩書房、1991年8月
- 006 浅羽通明『天使の王国—「おたく」の倫理のため』、JICC出版局、1991年8月
- 007 宅八郎『イカす!おたく天国』、太田出版、1991年9月
- 008 アクロス編集室編『ポップ・コミュニケーション全書—カルトからカラオケまでニッポン [新] 現象を解明する』、PARCO出版、1992年7月
- 009 Annalee Newitz “Anime Otaku: Japanese Animation Fans Outside Japan”.
Bad Subjects, Issue# 13, April 1994.
→ <http://www1.udel.edu/History-old/figal/Hist372/Materials/animeotaku.pdf>
- 010 大澤真幸「付録 オタク論」、『電子メディア論—身体のメディア的変容』、新曜社、1995年6月
- 011 岡田斗司夫「日本に恋する米国のオタク」、『AERA』朝日新聞社、1995年10月
- 012 辻大介「若者におけるコミュニケーション様式変化—若者語のポストモダダニティー」、『東京大学社会情報研究所紀要』、第51号、東京大学社会情報研究所、1996年3月
- 013 岡田斗司夫「オタク学開講宣言」、『AERA』、朝日新聞社、1996年3月25日号
- 014 岡田斗司夫『オタク学入門』太田出版、1996年5月
→ 岡田斗司夫『オタク学入門』、新潮社、2008年4月
- 015 Mark Schilling. *The Encyclopedia of Japanese Pop Culture*. Weatherhill, 1997
- 016 岡田斗司夫「新『オタク文化』講座」、清水均編『現代用語の基礎知識』、自由国民社、1997年1月

- 017 岡田斗司夫・山本弘・田中公平『史上最強のオタク座談会 封印』、音楽専科社、1997年4月
- 018 『ニューズウィーク日本版』、特集：オタクの世界からメジャーへ、1997年7月
- 019 スタジオ・ハード編『電腦オタクページ』、ゼスト、1997年7月
- 020 おたつきい佐々木『フッ完全おたくマニュアル』、ワニブックス、1997年8月
- 021 間庭充『若者犯罪の社会文化史』、有斐閣、1997年8月
- 022 宇田川岳夫『フリンジ・カルチャー—周辺のオタク文化の誕生と展開』、水声社、1998年4月
- 023 岡田斗司夫編『国際おたく大学』、光文社、1998年7月
- 024 石井久雄『『おたく』のコスモロジー』、『日本教育学会大会研究発表要項』、第57号、日本教育学会、1998年8月
- 025 圓田浩二「オタク的コミュニケーション「普通っぽい」アイドルと三つの距離」、『ソシオロジ』、第43巻第2号、社会学研究会、1998年10月
- 026 唐沢俊一・志水一夫『トンデモ創世記 2000—オタク文化の行方を語る』、イーハトーヴ、1999年8月
- 027 岡田斗司夫・田中公平・山本弘『史上最強のオタク座談会 封印』、音楽専科社、1999年8月
- 028 岡田斗司夫『オタクの迷い道』、文藝春秋、1999年3月
- 029 Sharon Kinsella. *Adult Manga: Culture & Power in Contemporary Japanese Society*. Routledge, 2000
- 030 斎藤環『戦闘美少女の精神分析』、太田出版、2000年4月
→Saito Tamaki. J. Keith Vincent and Dawn Lawson, translators. *Beautiful Fighting Girl*. University of Minnesota Press, 2011)
- 031 岡田斗司夫・山本弘・田中公平『史上最強のオタク座談会 2 回収』、音楽専科社、2000年4月
- 032 エチンヌ・バラール／新島進訳『オタク・ジャポニカ』、河出書房新社、2000年5月
- 033 岡田斗司夫・山本弘・田中公平『史上最強のオタク座談会 3 絶版』、音楽専科社、2000年7月
- 034 太田啓之「オタクの悲劇」、『AERA』、第13巻第45号、朝日新聞社、2000年10月
- 035 西井一夫編『社会主義の終焉 オタクの時代 1989』、毎日新聞社、2000年12月
- 036 岡田斗司夫・山本弘他『空前絶後のオタク座談会 1 ヨイコ』、音楽専科社、2001年5月
- 037 大塚英志『底本物語消費論』、角川書店、2001年10月
- 038 東浩紀『動物化するポストモダン—オタクから見た日本社会』講談社、2001年11月
→Azuma Hiroki. Jonathan E. Abel and Kono Shion, translators. *Otaku: Japan's Database Animals*. University of Minnesota Press, 2009.
- 039 岡田斗司夫・山本弘他『空前絶後のオタク座談会 2 ナカヨシ』、音楽専科社、2002年2月

- 040 岡田斗司夫・山本弘他『空前絶後のオタク座談会3 メバエ』、音楽専科社、2002年10月
- 041 森川嘉一郎『趣都の誕生 萌える都市アキハバラ』、幻冬舎、2003年2月
- 042 鶴岡法斎編著『日本オタク大賞』、扶桑社、2003年4月
- 043 「SOCIETY 日本文化 オタクビジネス、世界へ発進」、『Newsweek』、第18巻第23号、CCCメディアハウス、2003年6月
- 044 村瀬ひろみ「オタクというオーディエンス」、小林直毅・毛利嘉孝編『テレビはどう見られてきたのか—テレビ・オーディエンスのいる風景』、新教出版社、2003年11月
- 045 Marc Steinberg “Otaku consumption, superflat art and the return to Edo” (*Japan Forum*, Volume 16, no.3, Taylor & Francis, November 2004.
- 046 大塚英志『「おたく」の精神史—1980年代論』、講談社、2004年2月
- 047 相田美穂「現代日本におけるコミュニケーションの変容—おたくという社会現象を通して」、『広島修大論集』人文編、第45巻第1号、広島修道大学、2004年9月
- 048 国際交流基金／森川嘉一郎編『おたく：人格＝空間＝都市』、幻冬舎、2004年9月
- 049 大塚英志『物語消滅論—キャラクター化する『私』イデオロギー化する物語』、角川書店、2004年10月
- 050 長山靖生『おたくの本懐』、筑摩書房、2005年1月
- 051 村上隆編『リトルボーイ 爆発する日本のサブカルチャー・アート』、ジャパン・ソサエティー イェール大学出版、2005年3月
- 052 稲葉振一郎『オタクの遺伝子—長谷川裕一・SF まんがの世界』、太田出版社、2005年3月
- 053 本田透『電波男』三オブックス、2005年3月
- 054 斎藤環「おたくのセクシュアリティ 精神分析的視点から」、『人間存在』第11号、京都大学大学院人間・環境学研究科大学院地球環境学堂、2005年3月
- 055 村上隆『「脱力」に宿る芸術の力 おたくの起源たどる『リトルボーイ』展 NYで異例のヒット』、『朝日新聞』、2005年5月16日夕刊、第4面
- 056 『「アキバくん」とはまったく違う分野に存在する女性オタク(女オタク 萌える 女オタク)』、『Aera』、第18巻第32号、朝日新聞出版、2005年6月
- 057 守岡太郎「オタクの消費行動から市場の先を読む オタク市場マーケティング」、『Think!』第14号、東洋経済新報社、2005年7月
- 058 『ユリイカ』、総特集②オタクVSサブカル!、第37巻第9号、青土社、2005年8月
- 059 相田美穂「おたくをめぐる言説の構成：1983年～2005年サブカルチャー史」、『広島修大論集』、人文編、第46巻第1号、広島修道大学、2005年9月
- 060 野村総合研究所オタク市場予想チーム『オタク市場の研究』、東洋経済新報社、2005年10月
- 061 ササキバラ・ゴウ編『「戦時下」のおたく』角川書店、2005年10月

- 062 オタク文化研究会『オタク用語の基礎知識』、マガジン・ファイブ、2006年3月
- 063 杉浦由美子『オタク女子研究—腐女子思想大系』、原書房、2006年3月
- 064 大澤真幸「オタクという謎」、『フォーラム現代社会学』、第5号、関西社会学会、2006年5月
- 065 森川嘉一郎・三浦展「オタクと高速道路」、三浦展『「自由な時代」の「不安な自分」—消費社会の脱神話化—』、晶文社、2006年6月
- 066 牟田武生『ジャパंकール 団塊世代と若者・二つの世代が作りあげる新しいコラボレーション』、三松株式会社出版事業部、2006年8月
- 067 堀淵清治『萌えるアメリカ』、日経BP社、2006年8月
- 068 パトリック・マシアス／町山智浩訳『オタク・イン・USA—愛と誤解のAnime輸入史』、太田出版、2006年9月
- 069 「オタク文化の大攻勢 アニメ・お笑い・スシ今ニッポンがかっこいい!」、『週刊ダイヤモンド』、特集：ジョーク集より面白い 世界が見た日本、第94巻第43号、ダイヤモンド社、2006年11月
- 070 井上努「『楽しさ』としての観光経験の表象に関する考察」、『日本観光研究学会第21回全国大会論文集』日本観光研究学会、2006年12月
- 071 Ken Gelder. *Subcultures: Cultural histories and social practice*. Routledge, 2007
- 072 神澤孝宣「二極化するキャラクター消費」、『宝塚造形芸術大学紀要』第20号、宝塚造形芸術大学、2007年3月
- 073 歐陽宇亮「『オタク』とは何か—オタク文化の多様性とオタク・イメージの貧困性との矛盾を切り口にして」、『おたくのダイバーシティ サブカル・ポップマガジン まぐま』Volume15、Studio Zero／蒼天社、2007年3月
- 074 井上努「旅行経験に基づく〈観光オタク〉の創作活動と表象」、『立教観光研究紀要』第9号、立教大学大学院観光学研究科『立教観光研究紀要』(SAT)編集委員会、2007年3月
- 075 小山昌宏「図解オタクの形態考(おたくの多様性(ダイバーシティ))」、『まぐま』、第15号、蒼天社、2007年3月
- 076 Joseph Britton “Japan·Otacool Nation Trends of Japanese Otaku Youth”、『大阪府立大学総合科学部言語センター論文集』第6巻、大阪府立大学総合科学部言語センター、2007年3月
- 077 東浩紀『ゲーム的リアリズムの誕生 動物化するポストモダン2』、講談社、2007年3月
- 078 岡田斗司夫・唐沢俊一『オタク論!』、創出版、2007年4月
- 079 清谷信一「8万人動員!世界最大規模のイベント開催『オタク文化』はなぜこんなにフランスで隆盛なのか」、『創』第37巻第9号、創出版、2007年8月
- 080 樫村愛子「日本の『オタク文化』はなぜ世界的なものとなったのか」、『文學論叢』、第136巻、愛知大学文学會、2007年9月
- 081 竹熊健太郎・伊藤剛・森川嘉一郎「オタク文化の現在(7) 座談会 オタク・サブ

- カル・サブカルチャー」、『ちくま』通号 438 号、2007 年 9 月
- 082 歌田明弘「日本的なインターネット文化の誕生をめぐって」、生井英考・荒このみ編『文化の受容と変貌』、ミネルヴァ書房、2007 年 11 月
- 083 『2008 オタク産業白書』、株式会社メディアクリエイイト、2007 年 12 月
- 084 ヒロヤス・カイ『オタクの考察』、シーアンドアール研究所、2008 年 2 月
- 085 岡田斗司夫『オタクはすでに死んでいる』、新潮社、2008 年 4 月
- 086 杉浦由美子『かくれオタク 9 割—ほとんどの女子がオタクになった』、PHP 研究所、2008 年 4 月
- 087 森永卓郎・岡田斗司夫『オタクに未来はあるのか！？—「巨大循環経済」の住人たちへ』、PHP 研究所、2008 年 5 月
- 088 大塚英志・東浩紀『リアルのゆくえ—おたく／オタクはどういきるか』、講談社、2008 年 8 月
- 089 Azuma Hiroki. Jonathan E. Abel and Kono Shion, translators. *Otaku: Japan's Database Animals*. University of Minnesota Press, 2009.
→ 東浩紀『動物化するポストモダン—オタクから見た日本社会』、講談社、2001 年 11 月
- 090 早川清他編著『メイド喫茶で会いましょう』、アールズ出版、2008 年 9 月
- 091 大塚英志・東浩紀『リアルのゆくえ』、講談社、2008 年 8 月
- 092 江藤茂博『オタク文化と蔓延する「ニセモノ」ビジネス』、戎光祥出版、2008 年 10 月
- 093 松谷創一郎「<オタク問題>の四半世紀」、羽渕一代編『どこか<問題化>される若者たち』、恒星社厚生閣、2008 年 10 月
- 094 『國文学』、特集：「萌え」の正体、第 53 巻第 16 号、學燈社、2008 年 11 月
- 095 菊池聡『「おたく」ステレオタイプの変遷と秋葉原ブランド』、地域ブランド研究会編『地域ブランド研究』、第 4 号、地域ブランド研究会、2008 年 12 月
- 096 Renato Rivera “The Otaku in Transition”、『京都精華大学紀要』、第 35 号、京都精華大学、2009 年 1 月
- 097 清谷信一『ル・オタク フランスおたく物語』、講談社、2009 年 1 月
- 098 吉本たいまつ『おたくの起源』、NTT 出版、2009 年 2 月
- 099 田川隆博「オタク分析の方向性」、『名古屋文理大学紀要』、第 9 号、名古屋文理大学、2009 年 3 月
- 100 山中智省『「おたく」誕生—『漫画ブリッコ』の言説力学を中心に—』、『横浜国大 国語研究』、第 27 号、横浜国立大学国語・日本語教育学会、2009 年 3 月
- 101 金田一「乙」彦・編『オタク語事典』、美術出版社、2009 年 5 月
- 102 藤原実『知ってるだけで恥ずかしい現代オタク用語の基礎知識』、ディスカヴァー・トゥエンティワン、2009 年 5 月
- 103 榎本秋編『オタクの面白いほどわかる本』、中経出版、2009 年 6 月
- 104 『まほら』、特集：オタクツーリズム、第 60 号、旅の文化研究所、2009 年 7 月

- 105 菊地成孔・大谷能生『アフロ・ディズニー エイゼンシュタインから「オタク＝黒人」まで』、文藝春秋、2009年8月
- 106 折原由梨「おたくの消費行動の先進性について」、『跡見学園女子大学マネジメント学部紀要』、第8号、跡見学園大学、2009年9月
- 107 Patrick W. Galbraith. *The Otaku Encyclopedia: An insider's guide to the subculture of Cool Japan*. Kodansha International, 2009
- 108 浅野智彦「コミュニケーションの失敗／自閉するアイデンティティ」、広田照幸監修／浅野智彦編著『リーディングス日本の教育と社会』、日本図書センター、2009年3月)
- 109 オタク開発委員会『リア充宣言』、遊タイム出版、2009年3月
- 110 柳享英『OTACOOOL WORLD OTAKU ROOMS』、壽屋、2009年10月
- 111 William M. Tsutsui. *Japanese Popular Culture and Globalization*. Association for Asian Studies, Inc., 2010
- 112 Héctor García. *A Geek in Japan*. Tuttle Publishing, 2010
- 113 前島賢『セカイ系とは何か—ポスト・エヴァのオタク史』、ソフトバンククリエイティブ、2010年3月
- 114 長田進・鈴木彩乃「都市におけるオタク文化の位置付け」、『慶應義塾大学日吉紀要 社会科学』、第20巻、慶應義塾大学日吉紀要刊行委員会、2010年3月
- 115 脇坂幸恵『幻根と幻蕾の精神“オタク”女性たちとなりきりメールについて』、博士論文、大阪芸術大学、2010年3月23日
- 116 斎藤環『博士の奇妙な成熟—サブカルチャーと社会精神病理』、日本評論社、2010年5月
- 117 鏡裕之『非実在青少年論—オタクと資本主義』、愛育社、2010年6月
- 118 暮沢剛巳『キャラクター文化入門』、NTT出版、2010年12月
- 119 梶原健太朗・高木秀明「『おたく』の趣味についての一研究」、『横浜国立大学教育科学部紀要』、1、教育科学、第13巻、2011年2月
- 120 池田太臣「オタクの“消滅”～オタクイメージの変遷」、『女子学研究』第1号、甲南女子大学女子学研究会、2011年3月
- 121 安田誠『オタクのリアル—統計からみる毒男の人生設計』、幻冬舎、2011年3月
- 122 出原健「相同性—『オタク文化』の場合」、『彦根論叢』、第388号、滋賀大学経済学会、2011年6月
- 123 浅野智彦『若者の気分—趣味縁からはじめる社会参加』、岩波書店、2011年6月
- 124 佐々木隆「気になる言葉⑩ オタク／オタク文化」、『むらおさ』、第14号、むらおさ同人会、2011年7月
- 125 大倉韻「現代日本における若年男性のセクシュアリティ形成について—『オタク』男性へのインタビュー調査から」、『社会学論考』、第32巻、首都大学東京・都立大学社会学研究会、2011年10月
- 126 Patrick W. Galbraith. *Otaku Spaces*. Chin Music Press, 2012

- 127 辻泉「オタクたちの快樂」、小谷敏他編『<若者の現在>文化』、日本図書センター、2012年3月
- 128 Mizuko Ito, Daisuke Okabe, and Izumi Tsuji, editors. *Fandom Unbound: Otaku Culture in a Connected World*. New Haven & London: Yale University Press, 2012
→ 宮台真司監修／辻泉・岡部大介・伊藤瑞子編『オタク的想像力のリミット』(筑摩書房、2014年3月)
- 129 Patrick W. Galbraith. *Becoming-otaku: men, girls and movement in Akihabara*. 博士論文、東京大学、2012年3月22日
→ 日本語タイトル『オタクへの生成変化：秋葉原における男性と少女のムーブメント』
- 130 佐々木隆「大学教育とオタク文化」、『比較文化史研究』、第13号、比較文化史学会、2012年3月
- 131 辻泉「オタクの快樂」、小谷敏他編『<若者の現在>文化』、日本図書センター、2012年3月
- 132 本郷和人「東大教授、おたく、駆け出しのファンとして…おたく文化を許容する国に咲いた大輪のひまわり」、『中央公論』、第127巻第6号、中央公論新社、2012年3月
- 133 村上隆／美術手帖編『村上隆完全読本美術手帖記事 1992-2012』、美術出版社、2012年6月
- 134 辻泉「アニメーション・マニア、オタクという幻想」、横田正夫・小田正志・池田宏編『アニメーションの事典』、朝倉書店、2012年7月
- 135 佐々木隆「気になる言葉⑬ オタク文化系の大学」、『むらさお』、第16号、むらおさ同人会、2012年7月
- 136 難波功士・濱野智史「"ヤンキー"と"オタク"について語り尽くす」、『宣伝会議』、第845号、宣伝会議、2012年9月
- 137 辻泉「オタクの現在を考える」、『青少年問題』、第59巻、秋季、第648号、一般財団法人青少年問題研究会、2012年10月
- 138 嶽本野ばら『もえいぬ—正しいオタクになるために』、集英社、2012年7月
- 139 佐々木隆『オタク文化論』、イーコン、2012年12月
- 140 大塚英志『物語消費論改』、アスキー・メディアワークス、2012年12月
- 141 鈴木隆之『「オタク」の履歴書—「オタク」の文化人類学研究のための試論—』、『政治学研究論集』、第37号、明治大学大学院、2013年2月
- 142 Bradley Joff Peter Norman “Is the Otaku Becoming Overman?”、『東洋大学人間科学総合研究所紀要』、第15巻、東洋大学人間科学総合研究所紀要編集委員会、2013年3月
- 143 田名部生来 監修・著『田名部生来のオタクカルチャー大全』、別冊タナブ島、宝島社、2013年6月

- 144 浅野智彦『「若者」とは誰か—アイデンティティの30年』、河出書房新社、2013年8月
- 145 寺尾幸紘『オタクの心をつかめ』、SBクリエイティブ、2013年10月
- 146 團康晃『『おたく』の概念分析—雑誌における『おたく』の使用の初期事例に着目して』、『ソシオロゴス』、第37号、ソシオロゴス、2013年10月
- 147 薄葉彬貢『世界アニメ・マンガ消費行動レポート』、薄山館、2014年1月
- 148 加藤裕康「若者論とオタク論の系譜」、『現代風俗学研究』、第15号、一般財団法人現代風俗研究会東京の会、2014年3月
- 149 和田崇「オタク文化の集積とオタクの参画を得たまちづくり—大阪・日本橋の事例」、『経済地理学年報』、第60巻第1号、経済地理学会、2014年3月
- 150 渡邊秀司「オタクの言説—外部との『緊張感』を考えるために—」、『佛教大学大学院紀要 社会学研究科篇』、第42号、佛教大学大学院、2014年3月
- 151 宮台真司監修／辻泉・岡部大介・伊藤瑞子編『オタク的想像リミット』、筑摩書房、2014年3月
- 152 池田太臣「オタク的コミュニケーションの悦楽：メイドグラフィティ in 大阪」、『女子学研究』、第4巻、甲南女子大学女子学研究会、2014年3月
- 153 入江由規『『ゲスト』へと変貌したオタクたち—アニメ聖地巡礼者の交流から』、『フォーラム現代社会学』、第13巻、関西社会学会、2014年5月
- 154 羽生雄毅「日本発祥の『オタク文化』がインターネットを席卷している」、『クーリエ・ジャポン』、第115巻、講談社、2014年6月
- 155 長山靖生『「世代」の正体』、河出書房新社、2014年12月
- 156 アライヒロユキ『オタ文化からサブカルへ』、織研新聞社、2015年1月
- 157 Patrick W. Galbraith, Thiam Huat Kam, and Björn-Ole Kamm, editors. *Debating Otaku in Contemporary Japan*. Bloomsbury, 2015
- 158 しめすへん『現代オタク論～萌えオタクの正体はマイルドヤンキーだった～』、Kindle、2015年2月
- 159 永田大輔「コンテンツ消費におけるオタク文化の独自性の形成過程」、『ソシオロジ』、第59巻第3号、社会学研究会、2015年2月
- 160 檀朋美『『関係的な生きづらさ』をオタクの人間関係から捉える試み—『コミュニケーション不全症候群』の視点から—』、『社会システム研究』、第18号、京都大学大学院人間・環境学研究科 社会システム研究刊行会、2015年3月
- 161 今井信治『メディア空間における「場所」と共同性』：オタク文化をめぐる宗教社会学的研究』、博士論文、筑波大学、2015年3月25日
→今井真治『オタク文化と宗教の臨界—情報・消費・場所をめぐる宗教社会学的研究』、晃洋書房、2018年3月
- 162 『コンテンツ文化史研究』、第9号、特集：2011年大会「オタク・ファン・マニア」（オタクである覚悟）、コンテンツ文化史学会、2015年8月
- 163 原田曜平『新・オタク経済—3兆円市場の地殻変動』、朝日新聞出版、2015年9月

- 164 片瀬一男『若者の戦後史—軍国少年からロスジェネまで』、ミネルヴァ書房、2015年9月
- 165 佐々木隆「TV放送のオタク文化への影響」、『日欧比較文化研究』第19号、2015年10月
- 166 菊地映輝「オタク化するお台場—文化装置の集積に注目して」、『現代風俗学研究』、2015年12月
- 167 羽生雄毅『OTAKU エリート—2020年にはアキバカルチャーが世界のビジネス常識になる』、講談社、2016年1月
- 168 中島渉・松原敏・中津野俊太・中村雅子「『迷惑行為』から見えるオタクの境界デザイン」、『東京都市大学横浜キャンパス情報メディアジャーナル』、第17号、東京都市大学環境情報学部情報メディアジャーナル編集委員会、2016年4月
- 169 山岡重行『腐女子の心理学—彼女たちはなぜBL（男性同性愛）を好むのか?』、福村書店、2016年6月
- 170 『オタク女子の活動記録』、ふゅーじょんぷろだくと、2016年7月
- 171 王岩瀟「『オタク論』と系譜学」、『社会学雑誌』、第31・32号、神戸大学社会学研究会、2016年10月
- 172 五十嵐輝・小山友介「『おたく』的因子の抽出と『おたくステレオタイプ』の構造の検証—現代の『おたく』と『非おたく』（コンフリクトから見る社会・経済システム）」、『社会・経済システム』、第37巻、社会・経済システム学会、2016年10月
- 173 佐々木隆『ポップカルチャー論』、多生堂、2016年12月
- 174 西村青葉『オタクのための法学入門』、Ashikaga Records、2016年12月
- 175 Philip Seaton and Takayoshi Yamamura, editors. *Japanese Popular Culture and Contents Tourism*. Routledge, 2017
- 176 佐々木隆『今、ポップカルチャーが熱い! otaku, kawaii, emoji も英語に! キャラクターだらけの日本!』、武蔵野学院大学佐々木隆研究室、2017年2月
- 177 ぺろりん先生『アイドルとヲタク大研究読本』、カンゼン、2017年2月
- 178 辻泉「オタクたちの変貌」、小谷敏編『21世紀の若者論』、世界思想社、2017年3月
- 179 王岩瀟『オタク的なアイデンティティと欲望』、博士論文、神戸大学、2017年3月25日
- 180 北田暁大・解体研編『社会にとって趣味とは何か—文化社会学の方法規準』、河出書房新社、2017年3月
- 181 大泉実成『オタクとは何か?』、草思社、2017年4月
- 182 南隆太「AKBに観るヤンキー文化とオタク文化の接合関係について」、『応用語文学報』、第4号、国立臺中科技大学語文學院、2017年6月
- 183 株式会社ライブ編『二次元世界に強くなる現代オタクの基礎知識』、カンゼン、2017年7月
- 184 永田大輔「『オタクを論ずること』をめぐる批評的言論と社会学との距離に関して」、『年報社会学論集』、第30号、関東社会学会、2017年7月

- 185 Howexpert Press and Jessica Roar. *Otaku 101: An Introductory Guide to Learning About the Otaku Pop Culture, Anime, Manga, and More!* Createspace Independent Pub, 2018
- 186 渡邊秀司「『優しい関係』の展開について—オタクを事例とした人間関係の考察にむけて—」、『佛大社会学』、第 42 卷、佛教大学社会学会、2018 年 2 月
- 187 牧野宏紀「学級内における対抗文化としての『オタク文化』」、『奈良大学大学院研究年報』、第 23 号、奈良大学大学院、2018 年 2 月
- 188 今井真治『オタク文化と宗教の臨界—情報・消費・場所をめぐる宗教社会学的研究』、晃洋書房、2018 年 3 月
- 189 佐々木隆「『広辞苑』(第七版)に見るポップカルチャーの台頭」、『比較文化史研究』第 19 号、比較文化史学会、2018 年 3 月
- 190 佐藤一毅「ラテンアメリカのポップカルチャー「オタク文化」による日本文化伝播」、『ラテンアメリカ時報』、特集：ラテンアメリカへの日本文化発信、第 61 巻第 2 号、ラテン・アメリカ協会、2019 年春
- 191 宇野常寛『若い読者のためのサブカルチャー論講義録』、朝日新聞出版、2018 年 3 月
- 192 岡本健『アニメ聖地巡礼の観光社会学—コンテンツツーリズムのメディア・コミュニケーション分析』、法律文化社、2018 年 9 月
- 193 平成オタク研究会編『図解 平成オタク 30 年史』、新紀元社、2018 年 10 月
- 194 佐々木隆『ポップカルチャーとオタク文化の微妙な関係』、武蔵野学院大学佐々木隆研究室、2018 年 10 月
- 195 中川右介『サブカル勃興史—すべては 1970 年代に始まった』、KADOKAWA、2018 年 11 月
- 196 山上尚彦・斎藤環・森田展彰・大谷保和「オタク的消費行動と心理不適應の関連の検討」、『アディクションと家族』、第 34 巻第 1 号、日本嗜癖行動学会、2018 年 12 月
- 197 Patrick W. Galbraith. *Otaku and the Struggle for Imagination in Japan.* Duke University Press Books, 2019.
- 198 松下戦具「広義化した『オタク』の整理—オタクファッションを考察するために」、『大阪樟蔭女子大学研究紀要』、第 9 巻、大阪樟蔭女子大学、2019 年 1 月
- 199 小林義寛「『文化 (the cultural)』の文脈化—あるいは雑種化と土着化—」、山本賢二・小川浩一編『国際コミュニケーションとメディア—東アジアの諸相—』、学文社、2019 年 3 月
- 200 浅野星奈「現代“オタク”事情—キャラクターを活用する地方自治体・博物館(パラダイム・シフト?—誰が、何が、変えている)」、『調査・情報』、第 3 期、第 547 号、TBS メディア総合研究所、2019 年 3 月
- 201 佐々木隆『ポップカルチャーとオタク文化の微妙な関係 増補版』、武蔵野学院大学佐々木隆研究室、2019 年 5 月
- 202 はちこ『中華オタク用語辞典』、文学通信、2019 年 6 月

- 203 菊地映輝「都市空間におけるサブカルチャーの政策的振興に関する研究—文化装置論から見るコスプレ文化」、慶應義塾大学、2019年8月
- 204 ナリムラ『オタク女子池袋隠れ家ツアー』、ふゅーじょんぷろだくと、2019年8月
- 205 佐々木隆『書誌から見た「オタク」研究』、多生堂、2019年10月
- 206 中山淳雄『オタク経済圏創世記—GAFAの次は2.5次元コミュニティが世界の主役になる件』、日経BP社、2019年11月
- 207 張璋容「日本のポップカルチャーとジェンダー研究—オタク文化を中心に」、『ジェンダー研究』、第22号、公益財団法人東海ジェンダー研究所、2020年2月
- 208 亀山康夫『オタク文化の専門研究機関の発足とその効果：世界オタク研究所の活動から』、博士論文、慶應義塾大学、2020年3月
- 209 山田智之「オタクの職業観に関わる研究」、『上越教育大学研究紀要』第39巻第2号、2020年3月
- 210 高田治樹・菊地学・尹成秀「オタクはどのような印象をもたれてるのか？—オタクカテゴリと印象との相互関連性の検討」、『目白大学心理学研究』、第16号、目白大学、2020年3月
- 211 株式会社ライフ編『365日で知る現代オタクの教養』、カンゼン、2020年3月
- 212 佐々木隆『ポップカルチャーとオタク文化の微妙な関係 追加増補版』、武蔵野学院大学佐々木隆研究室、2020年4月
- 213 沈美雪「台湾における日本サブカルチャーの受容と現在—「オタク」の中国語訳語とオタク文化の広がり」、『中国文化研究』、第36巻、天理大学国際文化学部中国学科研究室、2020年7月
- 214 山岡重行編著『サブカルチャーの心理学—カウンターカルチャーから「オタク」「オタ』』、福村出版、2020年8月
- 215 『ユリイカ』、第52巻第11号、特集：女オタクの現在：推しとわたし、青土社、2020年9月
- 216 佐々木隆『ことばとオタク文化』、武蔵野学院大学佐々木隆研究室、2021年1月
- 217 松岡正剛『サブカルズ』、KADOKAWA、2021年1月
- 218 佐々木隆『書誌から見た「オタク」研究』（前編）（中編）（後編）、多生堂、2021年5月

[参考1]

- 001 ヴェルナー・ゾンバルト／金森誠也訳『恋愛とぜいたくと資本主義』、至誠堂、1969年7月
 → Werner Sombart. *Liebe, Luxus und Kapitalismus* (1922)の翻訳。
 → 金森誠也訳『恋愛と贅沢と資本主義』（論創社、1987年7月）、金森誠也訳『恋愛と贅沢と資本主義』（講談社、2000年8月）もある。
- 002 稲村博『機械親和性対人困難症』、弘文堂、1986年7月

- 003 成田康昭『「高感度人間」を解説する』、講談社、1986年7月
- 004 岡田斗司夫『ぼくたちの洗脳社会』、朝日新聞社、1998年11月
- 005 斎藤環『博士の奇妙な成熟—サブカルチャーと社会精神病理』、日本評論社、2010年5月
- 006 浅野智彦『若者の気分—趣味縁からはじめる社会参加』、岩波書店、2011年6月
- 007 宮入恭平・杉山昴平編『「趣味に生きる」の文化論—シリアスレジャーから考える』、ナカニシヤ出版、2021年4月

[参考2]

トンデモ本シリーズ

- 001 ト学会編『トンデモ本の世界』、洋泉社、1995年5月
- 002 ト学会編『トンデモ本の逆襲』、洋泉社、1996年4月
- 003 ト学会編『トンデモ本1999』、光文社、1999年1月
- 004 ト学会編『トンデモ本の世界R』、太田出版、2001年10月
- 005 ト学会編『トンデモ本の世界Q』、楽工社、2009年8月
- 006 ト学会編『トンデモ本の世界S』、太田出版、2004年6月
- 007 ト学会編『トンデモ本の世界T』、太田出版、2004年6月
- 008 ト学会編『トンデモ本の世界U』、楽工社、2007年10月
- 009 ト学会編『トンデモ本の世界V』、楽工社、2007年10月
- 010 ト学会編『トンデモ本の世界W』、楽工社、2009年10月
- 011 ト学会編『トンデモ本の大世界』、楽工社、2011年6月
- 012 ト学会編『トンデモ本の世界X』、楽工社、2011年7月
- 013 ト学会編『トンデモ本の新世界』、文芸社、2012年11月
- 014 ト学会編『タブーすぎるトンデモ本の世界』、サイゾー、2013年8月
- 015 ト学会編『日・中・韓 トンデモ本の世界』、サイゾー、2014年9月

執筆者一覧

佐々木 隆 武蔵野学院大学大学院・武蔵野学院大学教授

ポップカルチャー・若者文化研究 第6号

2021年6月28日 発行日

ポップカルチャー・若者文化研究会 編集・発行

〒350 - 1328

埼玉県狭山市広瀬台 3-26-1

武蔵野学院大学 佐々木隆研究室内

ポップカルチャー・若者文化研究会事務局

問い合わせ先 : takashi.sasaki@u.musa.ac.jp